

令和6年9月議会  
生活環境委員会  
報告資料

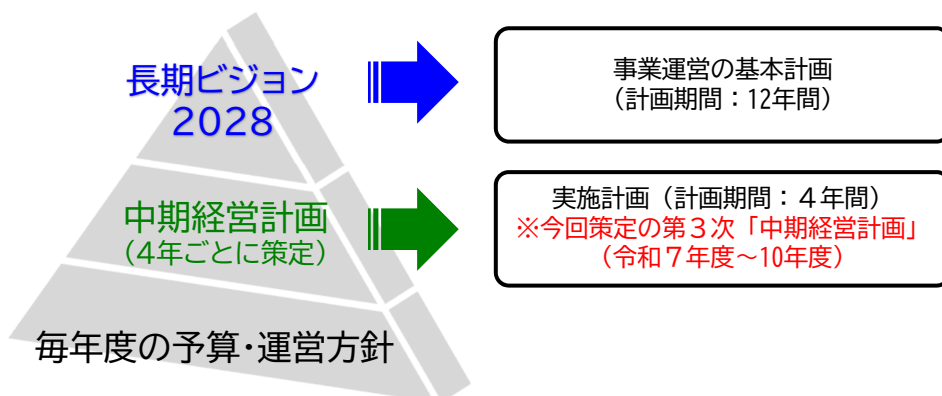
- 第3次「福岡市水道中期経営計画」及び  
「福岡市工業用水道中期経営計画」の策定について

水道局

# 第3次「福岡市水道中期経営計画」及び「福岡市工業用水道中期経営計画」の策定について

## 1 策定の趣旨及び位置づけ

「福岡市水道長期ビジョン2028」（水道事業運営の基本計画）及び「福岡市工業用水道長期ビジョン2028」（工業用水道事業運営の基本計画）の実施計画である第2次「福岡市水道中期経営計画」及び「福岡市工業用水道中期経営計画」が、ともに令和6年度末で計画期間の満了を迎える。このため、令和7年度から令和10年度までの次期実施計画として、4年間の具体的な事業計画や財政収支計画を定める、それぞれの第3次「中期経営計画」を策定するもの。



**水道事業の基本理念**

みなさまから信頼される水道  
～安全で良質な水の安定供給～

施策目標

- 1 水の安定供給と節水型都市づくりの推進
- 2 安全で良質な水道水の供給
- 3 危機管理対策の推進
- 4 安定経営の持続

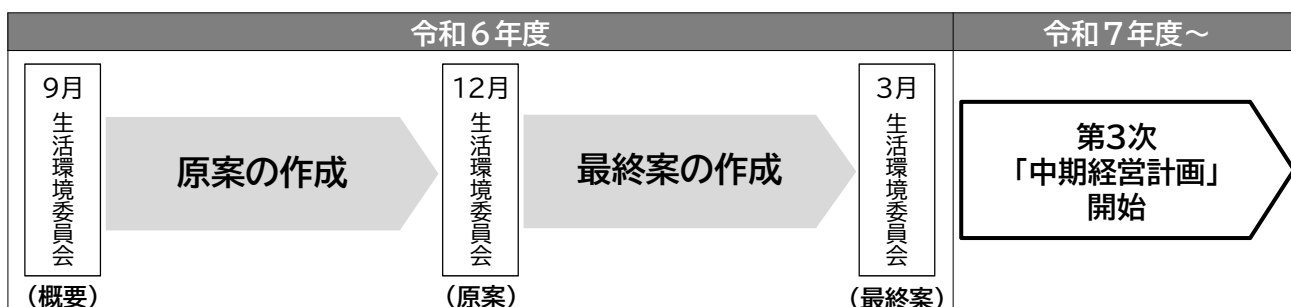
**工業用水道事業の基本理念**

産業と暮らしを支える工業用水道を次世代へ  
～安定供給・安定経営の持続～

施策目標

- 1 工業用水の安定供給
- 2 災害・危機管理対策の推進
- 3 安定経営の持続

## 2 スケジュール（予定）



### 3 第2次「福岡市水道中期経営計画」の振り返り

#### (1) 事業計画の振り返り

成果指標の一部に未達成の状況があるものの、各施策目標の達成状況は概ね良好であり、安定経営のもと、着実な事業進捗が図られている。

#### 施策目標1 水の安定供給と節水型都市づくりの推進



将来にわたり、安定的に水道水を供給するとともに、限りある水資源を有効に活用するため、計画的な水道施設の維持・更新や漏水対策、節水に関する広報等に取り組んでいる。

- ・ 浄水場の再編における乙金浄水場の増強整備は、完了時期を令和6年度末としていたが、コロナ禍による資材納入の大幅な遅れ等の影響により、令和8年度末まで延伸する見込みである。
- ・ 配水管の整備は、実質的な耐用年数内に更新できるよう計画的に更新を実施しているが、資材価格の高騰や労務単価の上昇等により、事業費が増大している。
- ・ 漏水率は、計画的な配水管の更新や漏水防止調査に加え、「配水調整システム」の効果的な運用等の相乗効果により、令和5年度で2.0%と極めて低い値を維持し続けている。
- ・ 節水意識は、令和5年度の市政アンケートによると、92.5%と高い水準を維持しているものの、40代以下については、低い傾向にある。

#### <成果指標達成状況>

指標名	長期ビジョン 策定時 (H27年度)	第1次計画 期末値 (R2年度)	R3年度	R4年度	R5年度 (見込み)	R6年度 (見込み)	第2次計画 期末目標値 (R6年度)
優先的に更新すべき 配水管の残延長 (km) (注1)	323 km	211 km	181 km	144 km	108 km	72 km	69 km
実質的な耐用年数を超過した 配水管の割合 (%) (注2)	5.6 %	5.2 %	4.5 %	3.5 %	2.7 %	1.8 %	1.7 %
漏水率 (%)	2.3 %	2.0 %	2.0 %	1.8 %	2.0 %	2.0%以下	2.0 %
節水意識 (%) (注3)	91.5 %	91.2 %	92.2 %	91.1 %	92.5 %	アンケート 実施	90%以上 を維持

#### 指標の解説

- (注1) … 腐食性が高い土壌に埋設された配水管のうち、腐食対策が施されていない管の延長  
 (注2) … (埋設環境に応じた実質的な耐用年数を超過した配水管の延長/配水管の総延長) × 100  
 (注3) … 市政アンケートにおいて「節水に心がけている」と回答したお客さまの割合

## 施策目標2 安全で良質な水道水の供給



全てのお客さまに安心して使える水道水を提供するため、水源かん養林の整備や国の基準等よりも厳しい福岡市独自の水質目標による水質管理、小規模貯水槽の適正管理や直結式給水の普及促進等に取り組んでいる。

- 水源かん養林は、主伐を含めた整備により、さらなる水源かん養機能の向上に努めるとともに、特殊カメラを搭載したドローンを活用し、効率的な点検を行っている。
- 国の水質基準等よりも厳しい福岡市独自の水質目標を定め、徹底した水質管理を行い、毎年度、概ね目標値を達成している。
- 小規模貯水槽の設置者に対し、管理に関する資料を定期的に送付し、適正管理の啓発に努めている。併せて調査票を送付し、清掃や点検の実施状況を確認するとともに、必要に応じアドバイス等を行っている。
- 直結式給水は、ホームページ等での広報や「直結給水相談窓口」により普及促進に努めており、直結給水率は目標値を上回って推移している。

### <成果指標達成状況>

指標名	長期ビジョン 策定時 (H27年度)	第1次計画 期末値 (R2年度)	R3年度	R4年度	R5年度 (見込み)	R6年度 (見込み)	第2次計画 期末目標値 (R6年度)
残留塩素濃度目標 (0.3~0.5mg/L) の達成率 (%)	82.8 %	86.9 %	88.1 %	88.1 %	89.4 %	85%以上	85.0 %
カビ臭物質濃度目標 (0.000005mg/L以下) の達成率 (%) (注1)	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	99.0 %	100.0 %	100.0 %
有機物濃度目標 (1mg/L以下) の達成率 (%)	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
総トリハロメタン濃度目標 (0.04mg/L以下) の達成率 (%)	99.5 %	100.0 %	100.0 %	99.7 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
直結給水率 (%)	48.7 %	55.0 %	55.9 %	57.1 %	58.1 %	59%以上	56.5 %

指標の解説

(注1) … ジェオスミン濃度及び2-メチルイソボルネオール濃度の合計

### 施策目標3 危機管理対策の推進



より災害に強い水道を目指して、多様なリスクに迅速かつ的確に対応できるよう、バックアップ機能の強化を含む地震等災害対策の推進や危機管理体制等の充実等に取り組んでいる。

- 管路の耐震化率は、令和6年度末までに期末目標値である63.0%を上回る見込みである。
- 耐震ネットワーク工事は、256箇所の給水ルートについて、令和6年度末までに完了する見込みである。
- 浸水・土砂災害リスクへの備えとして、浄水場や取水場等の重要な施設や水道局本庁舎について、耐水化を進めている。
- 事故・テロ等対策の推進として、監視カメラや油検知器の計画的な更新等を実施している。なお、水道原水監視の強化のため番托取水場に新設する「かび臭物質自動計測装置」は、令和6年度に設置を完了する見込みである。
- 令和6年能登半島地震を踏まえ、応急給水活動に重要な役割を果たす給水車の追加配備など、応急給水体制の強化を図っている。
- 給水基地は、塩原ポンプ場での整備が完了し、令和6年度を予定していた乙金浄水場での整備が浄水場増強整備に合わせ令和8年度まで延伸する見込みである。

#### <成果指標達成状況>

指標名	長期ビジョン 策定時 (H27年度)	第1次計画 期末値 (R2年度)	R3年度	R4年度	R5年度 (見込み)	R6年度 (見込み)	第2次計画 期末目標値 (R6年度)
管路の耐震化率 (%)	56.6 %	60.6 %	61.4 %	62.0 %	62.5 %	63.4 %	63.0 %
耐震ネットワーク工事の 整備率 (%)	45.7 %	93.0 %	93.8 %	94.9 %	97.3 %	100.0 %	100.0 %
給水基地の整備 (箇所)	12 箇所	12 箇所	12 箇所	13 箇所	13 箇所	13 箇所	14 箇所

## 施策目標 4 安定経営の持続



将来にわたり、安定経営を持続させるとともに、経営の基盤となる水道技術力を確実に次世代に継承していくため、経営の効率化や財政の健全化、人材育成の推進等に取り組んでいる。

- 積極的な情報提供に努めるとともに、「福岡市水道局アプリ」を活用したスマートフォン決済やプッシュ型の情報発信等により、利便性の向上を図っている。また、「ご使用水量等のお知らせ」票に導入した音声コード「ユニボイス」により、視覚障がいのあるお客さまへの情報提供の充実を図っている。
- ICT等の先端技術について、事業運営のあらゆる分野において、検討・検証を行い、実装化につなげている。
- 企業債残高の着実な縮減を図るとともに、資産の有効活用による収入の確保など、財政の健全化に努めているが、資材価格の高騰や労務単価の上昇等により、厳しい経営状況が続いている。
- 「水道局人材育成基本計画」に基づき、人材育成と技術の継承を図っている。
- 再生可能エネルギー由来電力の調達や、PPA方式による太陽光発電や官民連携スキームによる小水力発電の導入拡大等に取り組んでいる。

### <成果指標達成状況>

指標名	長期ビジョン 策定時 (H27年度)	第1次計画 期末値 (R2年度)	R3年度	R4年度	R5年度 (見込み)	R6年度 (見込み)	第2次計画 期末目標値 (R6年度)
水道行政への 満足度 (%) (注1)	83.8 %	85.0 %	85.7 %	85.2 %	85.7 %	アンケート 実施	85.0 %
ICTを活用した サービスの新規 利用登録件数 (件)	—	15.0万件	23.1万件	30.8万件	40.8万件	52.0万件	28.0万件
企業債残高 (億円)	1,252億円 (平成28年度末)	1,061億円	1,050億円	1,048億円	1,046億円	1,061億円	1,063億円
資産の有効活用による 貸付等の年間収入 (万円)	2,533万円	7,837万円	8,724万円	9,649万円	8,777万円	8,827万円	8,284万円

指標の解説

(注1) … 市政アンケートにおいて水道行政に「満足」と回答したお客さまの割合(直近5か年平均値)

## (2) 財政収支計画の振り返り

第2次「中期経営計画」期間（令和3（2021）年度～令和6（2024）年度）においては、料金収入の増加等により、計画を上回る利益及び累積資金を確保でき、今後のさらなる建設改良費の増加等に備えている。企業債残高は、ほぼ横ばいで、計画どおりとなっている。

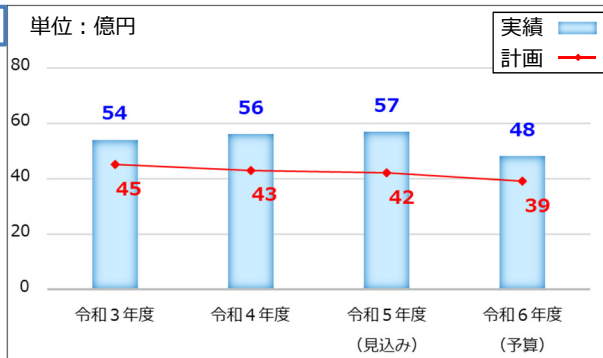
### ① 単年度損益

#### <計画>

- ・39億円から45億円程度の単年度利益を確保

#### <実績>

- ・新型コロナウイルスの影響により減少していた家事以外の用の料金収入が回復し、計画を上回って推移したことなどから、いずれの年度も計画を上回る利益を確保している。



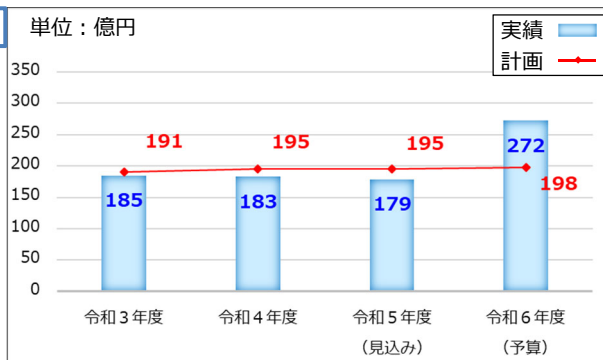
### ② 建設改良費

#### <計画>

- ・浄水場再編事業の本格化や、建設コストの上昇により、各年度の建設改良費は第1次「中期経営計画」から増加し、190億円程度を計画

#### <実績>

- ・材料費等のコスト上昇の一方、乙金浄水場整備工事の工程見直しや、繰越等のため、令和5年度までは180億円程度で推移している。
- ・令和6年度は、前年度からの繰越や建設コストの上昇等により、計画を70億円以上上回っている。



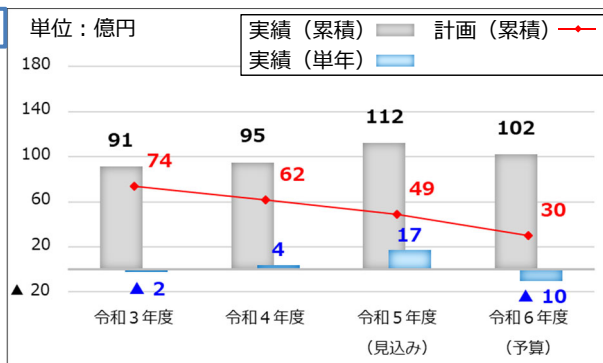
### ③ 資金収支と累積資金残高

#### <計画>

- ・令和6年度末で30億円を確保

#### <実績>

- ・料金収入や国庫補助金が計画を上回って推移したことから、計画を上回る累積資金を確保できている。



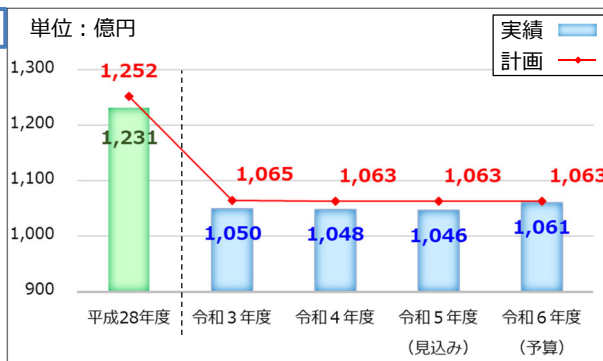
### ④ 企業債残高

#### <計画>

- ・企業債残高は横ばいで推移し、令和6年度末で1,063億円を計画

#### <実績>

- ・企業債残高はほぼ横ばいで推移し、令和6年度予算（繰越を含む。）では、1,061億円を見込んでいます。



※令和6年度予算額には、令和5年度からの繰越額を含む。

## 4 水道事業を取り巻く環境

計画期間中は、福岡市の行政人口は緩やかに増加すると予測されており、給水人口も緩やかに増加し、料金収入は微増傾向で推移すると見込んでいる。給水人口の増加や都市の発展にあわせて整備してきた水道施設については、順次、更新期を迎えている。また、大規模地震の発生に加え、大雨の頻度が増加するなど、自然災害が頻発化・激甚化している。さらに、脱炭素の機運が高まるとともに、テクノロジーが飛躍的に進歩するなど、社会経済情勢は大きく変化している。

水道事業を取り巻く環境	
① 人口の緩やかな増加	④ 自然災害の頻発化、激甚化
② 水需要、料金収入の伸びの鈍化	⑤ ICT等の先端技術の進展
③ 施設の老朽化	⑥ 地球温暖化対策の進展

## 5 第3次「福岡市水道中期経営計画」における取組みの方向性

第3次「中期経営計画」では、第2次「中期経営計画」の振り返りや、事業を取り巻く環境を踏まえ、以下のとおり取組みの方向性を定めて、必要な事業を着実に推進していく。

### ・施設の計画的な維持・更新

今後も継続して発生する更新需要に適切に対応するため、必要な施設の維持・更新を計画的に進める。

### ・災害対策の推進

災害時においても市民生活等への影響を最小限にとどめるため、施設の強靱化や災害応急体制の充実等を進める。

### ・DXの推進

進展する先端技術等を積極的に活用し、さらなる業務の効率化と生産性の向上を図る。

### ・脱炭素化に向けた取組みの推進

自然の恩恵を受けて事業を行う者として、脱炭素社会の実現に向け、省エネルギー対策や再生可能エネルギーの利用等を推進する。

### ・経営基盤の強化

より機能的な組織体制の構築や人材育成の強化による組織力の向上を図るとともに、民間活力の活用等による経営の効率化や財政の健全化に取り組む。

### ・戦略的な広報の展開

事業に関する広報・PRを効果的な媒体や手法を組み合わせてわかりやすく実施することで、お客さまの水道事業への関心や理解を深める。



## 6 第2次「福岡市工業用水道中期経営計画」の振り返り

### (1) 事業計画の振り返り

成果指標は目標値を上回って推移しており、各施策目標の達成に向け、事業が着実に進捗している。

#### 施策目標1 工業用水の安定供給



将来にわたり、工業用水を安定供給できるよう、工業用水道施設の長寿命化を図りつつ、更新期を迎えた管路の更新に取り組んでいる。

- ・ 浄水場の整備は、効果的な維持補修による施設の長寿命化や、計画的な更新に取り組んでいる。
- ・ 配水管の整備は、令和4年度までに基幹管路の更新を完了し、配水支管の計画的な更新に取り組んでいる。

#### 施策目標2 災害・危機管理対策の推進



災害に強い工業用水道を目指し、管路の耐震化やユーザー企業との迅速な連絡体制の構築・維持に取り組んでいる。

- ・ 令和4年度までに基幹管路の耐震化が完了し、配水支管の耐震化に取り組んでいる。

#### 施策目標3 安定経営の持続



事業に関する情報を随時提供し、ユーザー企業との相互理解の推進に努めるとともに、需要拡大に向けた営業活動を行い、財政の健全化に取り組んでいる。

- ・ 既存ユーザーと増量に向けた協議を行い、令和6年度に契約水量を増量した。

#### <成果指標達成状況>

指標名	長期ビジョン 策定時 (H27年度)	第1次計画 期末値 (R2年度)	R3年度	R4年度	R5年度 (見込み)	R6年度 (見込み)	第2次計画 期末目標値 (R6年度)
配水管のポリエチレンスリーブ 装着率 (%)	58.0 %	68.7 %	68.9 %	88.4 %	88.5 %	90.2 %	85.0 %
配水管の耐震化率 (%)	20.0 %	34.4 %	36.6 %	48.8 %	48.9 %	50.9 %	47.0 %
うち基幹管路の 耐震化率 (%)	16.0 %	47.1 %	50.1 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
ユーザー企業への経営状況の説明等 の実施及びホームページ情報 (事業概要等)の更新回数 (回/年)	料金改定時 に随時実施	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
アンケート調査の実施回数 (回/年)	随時実施	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回

## (2) 財政収支計画の振り返り

第2次「中期経営計画」期間（令和3（2021）年度～令和6（2024）年度）においては、累積利益は確保しているものの、単年度損益がマイナスになるとともに、建設コストの上昇等により、非常に厳しい経営状況にある。企業債についても、計画を上回る企業債残高となっている。

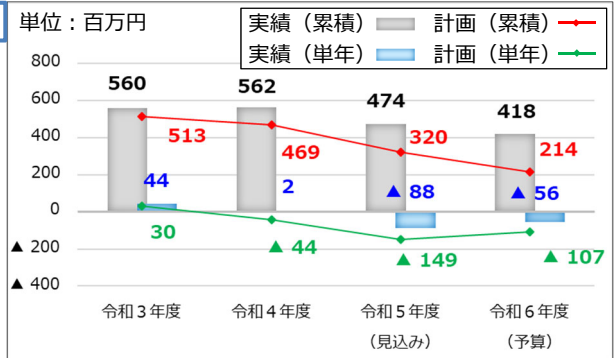
### ① 単年度損益と累積損益

#### <計画>

- ・令和6年度末で2億1,400万円の累積利益を確保

#### <実績>

- ・料金収入は概ね計画どおりに推移し、旧基幹管路撤去の先送り等により、令和6年度末で計画を上回る4億1,800万円の累積利益となっている。
- ・令和5年度決算、令和6年度予算は単年度損益がマイナスとなっており厳しい状況にある。



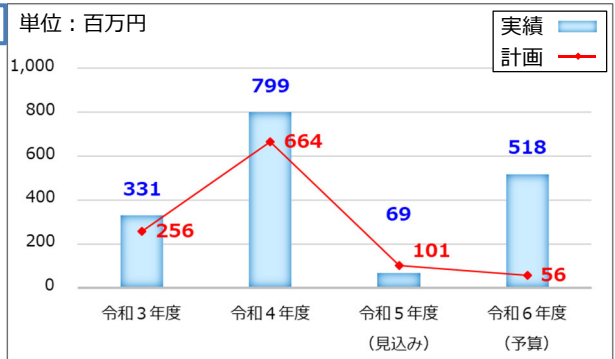
### ② 建設改良費

#### <計画>

- ・5,600万円～6億6,400万円の建設改良を実施

#### <実績>

- ・材料費等の建設コスト上昇等により計画を上回って推移し、令和6年度は浄水場設備更新工事の工程見直し等により、計画を大幅に上回っている。



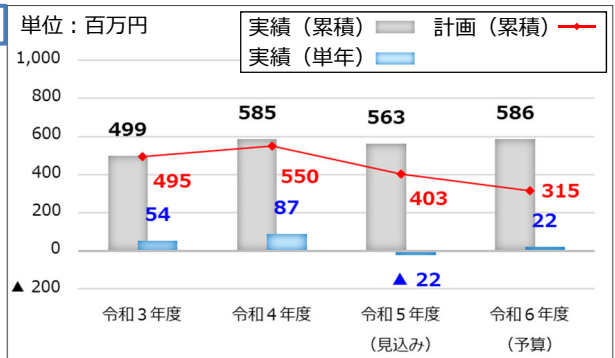
### ③ 資金収支と累積資金残高

#### <計画>

- ・令和6年度末で3億1,500万円の累積資金を確保

#### <実績>

- ・令和6年度末で計画を上回る5億8,600万円の累積資金を確保しているものの、令和5年度は資金収支がマイナスとなっている。



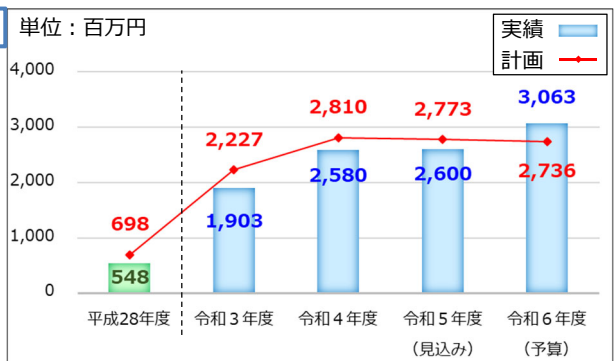
### ④ 企業債残高

#### <計画>

- ・基幹管路や浄水場設備の更新による建設改良費の増に伴い、令和6年度末で27億3,600万円まで増加

#### <実績>

- ・繰越等により令和5年度までは計画を下回って推移したが、材料費等の建設コストの上昇により、令和6年度の企業債残高は計画を上回る30億6,300万円を見込んでいる。



※令和6年度予算額には、令和5年度からの繰越額を含む。

## 7 工業用水道事業を取り巻く環境

契約水量がピーク時から大きく減少しており、事業の財源となる料金収入は、計画期間中は若干の増加を予定しているものの、基幹管路の更新完了に伴う、減価償却費や支払利息の増により、厳しい経営状況が続くと見込まれる。また、ユーザーの拡大に合わせて整備した配水支管が順次更新時期を迎えるとともに、大規模地震の発生や大雨の頻度の増加など、自然災害が頻発化・激甚化している。

### 工業用水道事業を取り巻く環境

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| ① 契約水量、料金収入の低迷 | ② 施設の老朽化と自然災害の頻発化・激甚化 |
|----------------|-----------------------|

## 8 第3次「福岡市工業用水道中期経営計画」における取組みの方向性

第3次「中期経営計画」では、第2次「中期経営計画」の振り返りや、事業を取り巻く環境を踏まえ、以下のとおり取組みの方向性を定めて、必要な事業を着実に推進していく。

### ・施設の計画的な維持・更新及び災害対策の推進

産業振興や社会経済活動に欠かすことができない重要なインフラであることから、施設の維持・更新を計画的に行うとともに、配水支管の耐震化等を進める。

### ・財政の健全化

新規ユーザー開拓等による需要拡大を図るとともに、さらなる経費削減や料金改定を含めた財政健全化策の検討を行う。

